

価値あるマテリアルを生み出す 多彩な技術を活かし、国境を越えて 社会の発展や環境保全に貢献いたします。

次の豊かさの創造へ向けて、 高品質な製品を幅広く供給。

三井金属グループは、貴重な地球資源である鉱物を、長年培った製錬・加工技術で様々な製品に変え、幅広い産業分野へ向けて供給しています。その多くは高度情報化社会の発展を支え、環境負荷の低減に寄与するなど豊かな社会の創造に欠かせないものであり、私どもはその役割をしっかりと認識し、使命感をもって高品質な製品の供給に努めております。

一例を挙げますと、環境に優しい電気自動車(EV)やハイブリッド車を支える電池材料、排気ガスによる大気汚染の低減に貢献する触媒、スマートフォンなどデジタル機器に欠かせない銅箔などがあり、いずれも市場で高く評価されています。また、ドアロックなど自動車用機能部品においても高い技術力を持ち、世界トップクラスのシェアを有しています。

三井金属グループの源流ともいべき金属事業においては、南米やカナダで鉱山の操業や資源開発を推進している他、自動車用バッテリー、携帯電話、電子基板など膨

大な量の廃棄物から鉛、銅、金、銀、さらにはレアメタルなどの有用金属を回収し再利用する、いわゆる都市鉱山の開発にも注力し、リサイクルを中心に据えた製錬事業は、最も重要な事業のひとつに成長しています。

世界に広がるマーケット。 環境負荷の低減にも貢献。

鉱物という限りある地球資源を事業の根幹に据える三井金属グループは、技術や製品を通して地球環境の保全に貢献することを事業活動の重要なテーマに掲げております。資源のリサイクル、環境負荷の低減に役立つ機能材料の開発・供給はその柱となるものですが、今、海外の市場で大きな期待を集めているのが、自動車・二輪車用排ガス浄化用触媒です。

排ガス浄化用触媒は、自動車や二輪車の排ガスに含まれる有害物質を無害なものに変えて排出する役割を果たすものです。日本や欧米ではすでに普及していますが、新興国では緒に就いたばかりで普及が急がれています。とりわけ大気汚染が深刻な社会問題となっている東南アジアでは、近年の排ガス規制強化を背景に、排ガス浄化用触媒

の市場が急激に拡大。三井金属グループでは、すでにインド、タイ、中国、インドネシア、ベトナムに工場を設け、更にアメリカケンタッキー州に工場を立ち上げており、需要の拡大に対応する体制を構築し、各国の実情に合った製品を供給することで排ガス問題の改善に寄与したいと考えています。

三井金属グループは、価値ある製品のマーケット拡大を目指すとともに、その活動を通じて国境を越えた環境貢献にも努力してまいります。

強みのある分野に磨きをかけ、 新しい価値を提供できる企業へ。

三井金属グループは、「創造と前進を旨とし、価値ある商品によって社会に貢献し、社業の永続的発展・成長を期す」を経営理念として掲げ、常に新しい技術やものづくりに挑み続けることで時代のニーズを先取りし、社会に貢献してまいります。そのためにも培ってきた強みを発揮でき、成長につながる事業領域へのアプローチを継続し、その分野においては他に負けない輝きを放つ存在でありたいと願っています。このような考えのもと、現在取り組んでおります中期経営計画では、電池材料事業、触媒事業、リサイクル事業の強化を図っており、今後もその取り組みを前進させてまいります。また、将来を見据え、新たな成長の芽の探求にも力を注いでおります。

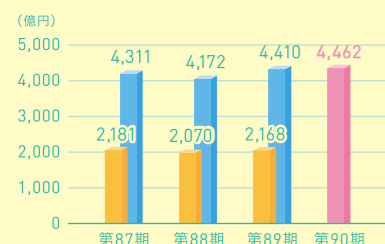
環境と深く関わりながら事業のフィールドを広げている三井金属グループ。その取り組みをご紹介しますのが当環境報告書です。幅広い世代の方に興味を持っていただけるよう、わかりやすく親しみやすい誌面づくりを心がけて編集しております。三井金属グループがどんな姿勢で事業に取り組み、どのような環境活動に取り組んでいるのか、ご理解いただく一助となれば幸いです。

皆様方には、今後とも三井金属グループの事業に対し、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第89期決算

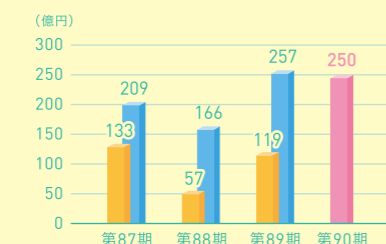
売上高 / 4,410 億円

■ 上半期 ■ 通期 ■ 今通期予想



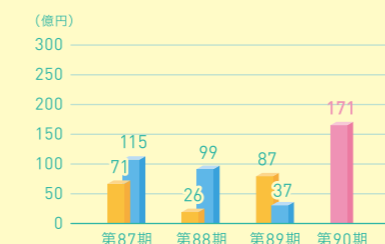
営業利益 / 257 億円

■ 上半期 ■ 通期 ■ 今通期予想



当期純利益 / 37 億円

■ 上半期 ■ 通期 ■ 今通期予想



平成26年8月8日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今通期予想につきましては、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。



代表取締役社長

仙田 貞雄

SADAO SENDA